大国県議の質問（続き）

■検査体制の抜本的な充実を

県内でも保育、教育の現場で新型コロナ・オミクロン株が猛威を振るっており、ワクチン接種の迅速化が求められています。

大国県議は、教職員や保育職員はワクチン優先接種の対象となっていると指摘し、接種を迅速化するよう求めました。

また、大国氏は保育や教育の現場においても「無症状者への定期検査を自己負担なく実施できるような体制を県として構築すべき」と要求。

小村浩二健康福祉部長は現時点では困難として「必要な対策が確実に実施できるよう必要な経費、体制など引き続き国に要望していく」と述べるに留まりました。これに対し、大国氏は「無症状感染者を見つけ出すことは感染拡大を抑えることにつながる」とし、「検査体制の抜本的な充実、保健所機能の強化、保育や学びをいかに保障していくのか、政治の責任として肝に銘じたい」と述べ、執行部にたえず努力するよう要望しました。

■避難計画の実効性ただす

大国県議は、島根原発10㌔圏内に位置する平田の地合町の住民から「再稼働はしないでほしい」「自分は避難訓練に参加したこともない。どこに避難するかもわからない」などの声が寄せられたことを紹介。その上で「避難計画の実効性を高めるにしても、現時点において、すべての住民を安全に避難させることが可能なのか」と丸山達也知事の認識を質しました。

丸山知事は「住民の一つひとつの声を参考にしながら実効性を高めていく」と答えました。

大国氏は「新規制基準に合格したからと言って原発に絶対の安全はない。使用済み核燃料の処分方法も未確立で、事故の際に住民が安全に避難できる保証はない」と訴え、「避難計画の実効性に確信がなければ、島根原発再稼働のゴーサインはすべきでない」と強調しました。

尾村県議の質問（続き）

■未知なる感染症への備え強化を

県が昨年11月に策定した病床確保計画では最大の推計患者総数は450人としていましたが、1月の最大療養者数は1394人にも上り、想定の3倍を超す患者数となりました。最大の宿泊・自宅療養者数は200人と推計していましたが、実際の自宅療養者数は計画の5倍を超す1千人超となりました。

尾村県議は、新型コロナをはじめ、未知なる感染症に備えるためにも「検査体制」「医療提供体制」「保健所体制」を3点セットで強化するよう迫りました。

尾村氏は、日本のPCR機器所有数は世界第2位であることを紹介し、「いつでも、誰でも、無料で」受けられる検査体制の確立・強化を要求。また、保健所体制を拡充し、減収となった医療・福祉機関に財政支援を行うとともに、医療・福祉労働者の抜本的な処遇改善を求めました。

尾村氏は県内の一般・療養病床数は9175床（2013年度）から、7958床（20年度）へと1217床も減らされ、「地域医療構想」では25年度の必要病床数は6569床と想定され、さらに病床を減らす計画となっていると指摘。県内368床のコロナ確保病床のうち、国から再編・統廃合と名指しされた松江医療センター、玉造病院などを含む5つの病院が58床ものコロナ病床を確保していることを示し、「医療機関にコロナ病床の確保を求めながら、病床削減を進める政策は矛盾している」と訴え、病床削減路線はキッパリ中止するよう求めました。

■営業・営農に希望もてる施策を

新自由主義のもとで、①非正規雇用が増やされ、低賃金を押し付ける労働法制の規制緩和が推進され、②社会保障費削減で医療・介護、公衆衛生が切り捨てられ、③消費税の連続増税が富裕層・大企業減税と一体で行われました。尾村県議は、真の島根創生を実現するために「もろく弱い経済」にした新自由主義を転換し、「やさしく強い経済」にしていくことが重要だと指摘。その上で、コロナ危機で営業・営農意欲が低下している事業者へ希望ある施策を発信すべきと強調しました。具体的には、①中小企業への賃上げ支援とセットでの最低賃金引き上げ②女性の雇用環境の抜本的な改善を図り、ジェンダー平等社会の土台とすること③社会保険料の事業主負担の軽減や消費税減税④農産物の価格保障、所得補償を組み合わせるよう求めました。

「私の名前とジェンダー平等」鼎談④

にひそうへい前参院議員（党中央ジェンダー平等委員）
坂本洋子さん（NPO法人mネット・民法改正情報ネットワーク理事長）
恩地いづみさん（第二次別姓訴訟広島・原告/医師）

自分の名前を普通に使いたい

恩地いづみ　自己紹介から始めたいんですが、私は1983年に結婚しました。式をする前に名前変えるの嫌だな、本当に思いだけだったんですが、その時夫になる彼と話をして「私名前を変えるの嫌」と言ったら、その時すごい簡単に「じゃ僕変えようか」と彼が言って、フムーと思ったんですが、その時代って夫婦別姓という言葉も一般的じゃないし、事実婚なんてとてもじゃないし、やっている人もないし、これで夫が私の名前になったら、私が何を言われるかわからないし、自分が可愛かったのでそこまで勇気を出せなくて、とりあえず変えて使えるところでは名前を通称で使いたいなと思って名前を変えたんですが、旧姓併記なんかも全然ない時代だし、職場でまず使えない。そこで職場で使わせろというような交渉でもしていたらカッコよかったんですが。そこまでする勇気もなかったんで、友達だけ、知っている人だけ「私は恩地です。恩地を使い続けます」と恩地を使おうとしたのですが、しばらくして子どもが生まれて夫の姓になり、運転免許証の書き換えで名前が変わり、身分証明がなくなり、こうして「恩地いづみ」というのがなくなっていくようで不安になって、そうしているうちに夫との関係性に影響を与えるようになったんです。

「私がこんな思いをして名前を変えているのに、あなたは変えないでそのまま生活して、挙句に子どもの保育園の準備も全部私がしている」など、夫との関係もひどいことになってきて。とりあえず自分の名前を普通に使いたい、恩地いづみをそのまま使える状態にしたいという思いで、結婚して7年経ってから、だんだんと夫婦別姓という言葉もメディアにも出てくるし、それこそ国会で質問していただいていたころ、いろんな情報も伝わってきて、私だけじゃないという思いでそこで勇気をもって事実婚にしました。

そこから後は、どこに行っても「恩地いづみ」です。仕事の場でも恩地いづみだし、自己紹介もサインする時もなんの悩みもなく聞かないでサインができるという状態で。事実婚であるということ自体は凄くやりやすい事なのですが、事実婚というのは婚姻ではないので、今度は結婚していることを証明することができないので、例えばクレジットカードの家族カードとかは入れないし、ちょこちょこしたところで壁があった。事実婚になってから3人目の子が生まれたので、その子は私の戸籍に入って恩地の姓を名乗っています。

その後、mネットから「第二次別姓訴訟というのが準備されていて、今度は事実婚の原告でやりたい」という情報があって、事実婚だったら私も事実婚だし、原告はたくさんいた方がいいよという人がいて、集団訴訟で何百人も原告がいるようなことをイメージしたので「その中の1人ぐらいだったら名前出してもいいよ」ぐらいの思いで原告になりますと言ったんです。

にひそうへい　恩地さん、共産党への期待とかあれば伺っていいですか。

恩地いづみ　ぶれずにまっすぐ、大事なことをきちんと言ってくださっていることで信頼しています。私はもう、根っからの無党派で、選挙のたびに、適当に、いろんな党の方に投票するようないい加減なやつなんですが、あの、共産党の方々のぶれない姿勢っていうのをすごく信頼しているし、頑張って欲しい。野党連合がもっとすすめばいいなと思ってます。

にひそうへい　ありがとうございます、頑張ります。（終り）